

## 2019 年度前期「学生による授業評価」に関する検討会

# 報告書

### 学科科目

### 目次

国際英語学科	国際英語専攻	p.1
人文学科	哲学専攻	p.11
	日本文学専攻	p.12
	英語文学文化専攻	p.13
	歴史文化専攻	p.16
	国際社会学科	国際関係専攻
	経済学専攻	p.19
	社会学専攻	p.20
	コミュニティ構想	p.21
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	p.22
	コミュニケーション専攻	p.24
人間科学科	言語科学専攻	p.27
数理科学科	数学専攻	p.29
	情報理学専攻	p.30
女性学研究所（女性学・ジェンダー科目）		p.32

2020 年 3 月

東京女子大学 FD 委員会

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	国際英語学科国際英語専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	本合 陽
検討会実施日	2019年10月23日
出席者数	19名（内、非常勤講師 0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

The comments I received in this class are as follows:

- 親切に、熱心に教えて下さりとても満足しました。勉強へのモチベーションが高まりました。
- 理解しているか毎回確認してくれているところが良かった。質問の機会がきちんとあって良かった。
- クラスページをこまめに更新してくれたり、英語の学習サイトを紹介してくれたりと本当に役に立っている。
- 学生同士で英会話をするだけでなく、ネイティブの先生にスピーキングを評価してもらう時間もあれば良いと思います。
- 質問をいつでも受けつけてくれるところが良かったです。
- スピーキングをよくやったこと。英語で話すのに少し慣れた気がする。
- 話す機会が多くて良かった
- 課題が授業で学習したことに沿って出されていて復習の機会を多く持てたことが良かったと思う。
- 苦手意識があった Speaking を楽しく学ぶことができたので良かった。

The overall score for this course is 3.87. I am very pleased with the student feedback. I believe that I should continue what I am doing in the future. However, I also believe that I should add mock one-on-one or pair speaking tests with the students.

The comments I received in this class are as follows:

- Thank you very much
- とても丁寧に授業をしていただいたため、理解しやすかったです。また、質問しやすい環境だったため授業をうけやすかったです。

The score for this course is 3.75. In every class, I had many questions from the students and that made my job easier as I could easily understand what the students did not know, what their needs are, etc.

Reading these comments, I am relieved to know that my materials were able to help the students to improve their writing. As this is my first semester, it was challenging to be able to meet the needs of all the different levels of the students. I am glad to read these comments as that means that I was able to help these students in particular.

- Some material you distribute to us are very useful and help me!
- I really understand how MLA format are. I'm glad to make me discuss some important topic. My writing skill improved thanks to professor! Thank you!
- This class is very fun for me and also I feel I could improve my English skills in this

class.

- 月、金の1限で大変だったが、先生が明るく元気だったので良かった。また、先生はジェンダーや人権への配慮もあり、とても尊敬できた。
- The teacher's voice is very clear and easy to understand, so I can understand how to write the essay more than I can last year.

I appreciate your comment. It's always important for teachers to explain information in a way that's easy for students to understand.

- 不慮の事故があり、授業が2回も休講になってしまいましたが、生徒たちにそのしわ寄せが来ることはそんなになく、状況に臨機応変に対応してシラバスを組み直してくれました。

Thank you for the comment. Unfortunately, I had to cancel the class two times and wasn't able to schedule makeup classes. Luckily, we could successfully reorganize the syllabus to cover the required material.

- 英語のエッセイでの書き方を詳しくしてくれた。

Thank you. Details are important. It's essential for students to understand the details about how to write academic essays and the details about why their essays may not be perfect.

- 全て英語での授業だったので心配だったけれどわかりやすい単語・文法で話してくれたので理解できました。

Thank you. I always try to speak and explain the texts clearly in English without simplifying the ideas that are sometimes quite complicated.

- At the beginning of the semester the lecture speed was a bit slow so it leads to having no time to do all the literatures (Melville, for example).

Thank you for your important comment. I try to speak slowly for a few weeks at the beginning of the year until students become accustomed to my voice. In the future, I'll try to shorten the reading list to make sure we have time to cover everything.

- 難しいですが、とても重要な授業です。米文学史を、作者とそのバックグラウンド、作品とともにくわしく説明してくれます。

Thank you for the comment. I always emphasize that this class is a combination of history and literature. Sometimes details from a writer's life or about the time period can increase our appreciation of a story or poem.

- ゴシック怖かったけどおもしろかった。

Thank you for your interesting comment. I realize that some students might be afraid of Gothic literature. I try to approach Gothic literature objectively rather than emotionally. In this way I hope the class can be interesting rather than scary.

- I'm going to make use of the learning and knowledge from this class in my studying

abroad. Thank you!

- I really enjoyed this class. I have interests in Cultural Studies more.
  - 文化が何か分かった気がします。授業はとてまたのしくもっと Cultural Studies について学ぼうと思います。
  - It was interesting class I really enjoyed learning what culture is! Thank you
- I have no 'feedback' for the comments.

Overall, my students' responses were very positive, with scores all higher or significantly higher than the average. The comments generally also reflect this.

- 優しい。説明がわかりやすく、モチベーション向上につながる授業をしてくれる。楽しい。
- いつも気づかいをしてくれた。全員が授業に参加できるように先生が配慮してくれた。
- IELTS の解き方をわかりやすく教えてくれた
- Perfect!
- Excellent.
- 理解しやすい英語を使って下さったので授業が分かりやすかった。またダイアリーの提出を毎週行うことは自分の中で習慣になったので非常によかったと思う。
- While we were talking in English, Andy checked closely on whether we were using "s" and the pronunciation which helped us a lot.
- 毎回同じ相手とではなく、たまに違う人と組んで課題にとり組むようにしてもいいと思った。
- I like this class most in a week. Thank you.
- 値段の高い教科書を1度もつかわなかったのがもったいなかった。
- 教え方が丁寧い。
- There was a time when I said something unreasonable and there was laughter, but the class itself was enthusiastic.
- I like you.
- The explanation of homework was a little difficult to understand, so I had a hard time understanding what to do.
- Because the teaching was in English, there were many parts that seemed difficult, but I was able to understand.
- Thank you for the enjoyable lesson.
- I was glad that you practiced practically for IELTS.

I am glad that you enjoyed the class. Sometimes when a student make a mistake, I correct them and try to ease the tension with a joke about how I made a similar mistake when I was studying languages. I see that if my words are not understood, it can be mistaken that I was making fun of the student rather than showing "we all make mistakes," laughing at my own experience. No ridicule was ever intended so I apologize.

In terms of understanding the homework, I write what to do on the board, ask if students understand, and if there are any questions. Usually students do not say they have questions. Please know that you should say that you do not understand something if you do not know what to do. If you do not want to say something in front of your classmates, you can always see me during my office hour or you can send email. I make myself available to students if they ask for help.

The more you practice English, the better you will be at it. Use the time in class to speak English more. As I have told you, saying “I do not know” or “I do not understand” are acceptable answers--you are still speaking English.

「授業の進め方が早すぎる時がある」というコメントがありました。これは、場合によっては、シラバスに明記した予定の内容を網羅するために説明の言葉が足りなかったりすることがあったためかと思います。今後は、授業展開のペースを考慮するように努めます。学生の皆さんも、事前学習を充実させることで話についてきやすくなるかもしれませんので、事前学習時間の確保をお願いします。

- 先生が生徒1人1人にきちんと質問していて、より授業理解が深まったと思う。是非また機会があったら先生の授業をとりたい。
- とても興味のある授業展開でした。授業内容に関連した本やニュースの紹介が時にあり楽しかったです。毎週水曜日はこの授業だけでしたが、とても楽しみでした！！
- 1学期で異なる分野（一部略）を学ぶことができ、自分の視野を広げられた。さらに、最終プレゼンテーションでは自分の興味のある部分を深く掘り下げることができた点も良かった。
- グループワークが多く、また、そこからの発表もあり、様々な人の意見に触れ、自分の常識を変えうる経験ができたこと。
- 先生の解説は分かりやすく面白かったので、前期で終わってしまうのが寂しいです。また先生の授業を受けてみたいです。ありがとうございました。

以上の授業に対する好意的なコメントを多くいただき、大変ありがたいです。特に授業の内容についてのコメントは、我々教員は時間をかけて教材を選びシラバスを作成したので、嬉しく受け止めました。

- それぞれ違う留学先に行く人たちのプレゼンを聞いたり、目標をシェアしたりできてとても楽しく、充実した授業でした。
- 生徒が英語で言ったことを、先生がさらにわかりやすい英語で言い換えてくれたのがとても良かったです。半年ありがとうございました。健康で有意義な留学となるよう頑張ります。
- 居心地の良い雰囲気を出してくださり、木曜日は1限から5限まで授業が詰まっていた気分がゆううつでもこの授業は楽しみに来てました。ありがとうございました。
- 毎週ここまでやってくださいと指定があってそこをリサーチしてくるというのが毎週のルーティーンだったので、最後のSA計画書を苦勞せずしあげることができました。プレゼンについて個人的にどうしたらよくなるかアドバイスがほしかった。

留学に対して前向きで明るい学生が多く、こちらとしてもとても楽しいクラスでした。よい授業を作ってくれた皆さんに感謝しています。コメントにあるよう、最後のプレゼンは時間もいっぱいばいばいで、個人的なフィードバックができなかったことは反省点です。次年度に活かしたいと思います。

- 英語の新しい見方を知れて面白かった。課題が何を書いていいか、分からなかった。参考文献とかのヒントがあればもっと深く課題について考えられたと思う。
- 内容が難しかったのでついていくのに必死だった。
- 特になし。しいていうなら、プリントでもいいけど教科書の方が、資料がバラバラにならずにすむし、欠席者がプリントもらえないという状況もなくなると思った。適した教科書があるならそれを使ったほうが良いと思った。

- 内容がおもしろかった。
- とても分かりやすく、おもしろかった。@@先生のおかげで興味がもてた。
- コメントペーパーを返却するときに、他の人の質問や疑問点、気づいた点などを共有して下さったのが良かったです。
- 教職の必修だったので苦手な分野でもとりましたが、先生が分かりやすく簡潔に説明してくれたので、なんとかやっていきました。演習を授業内にいれてくれてありがたかったです。

最後に出した課題は、確かに不十分なものも多く、出来不出来の差が大きかったです。参考図書はいくらでもあります、自分で適切なものを見つけるのも課題の一部であると思います。

半期で英語のしくみを網羅する適切な教科書は無いと考えているため、プリントを使用しました。新しいデータを入れてアップデートすることもできるため、今後もそうするつもりです。

今後も練習問題を解く時間をつくり、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

クラスの進捗は大半が「ちょうどよかった」だったが、人によって早い、遅いの意見も数件あった。個人差が若干あるので、この点はクラスで話し合いたい。

課題（異文化理解のみ）が明示した分量がすべてカバーできなかったので申し訳なかった。来年度以降、同じテキストの場合は異文化理解は、課題量を減らすようにしたい。

「国際英語3コースの勉強と就職の関係について知りたい」という声がありましたが、これは各クラスというよりも学科全体で説明機会を設けた方がよいように思われました。

以下の意見を代表とする、グループワークへの評価が高い傾向がありました。今後もグループワークのよい点を活かすことができるように、授業運営を考えたいと思います。

- グループで話し合う時間がたくさんあり、自分では気がつかなかった新たな発見をすることができて良かったです。また先生も話し合った意見を肯定しながら新たな見方や考え方を提案してくれてよかった。
- グループに分かれての話し合いは、自分の意見と異なる意見を共有してより本文の理解を深めることができ、非常に効果的であった。先生が班をまわって学生とコミュニケーションをとり、更に深い考察や議論が可能になった。全体を通して興味深い授業であった。

しかし一方で、

- グループでの議論をするのは良かったです、グループ分けを課題ごとにやってほしかったです。その方が議論が活発になったと思います。

という、グループを固定しない方が良いというコメントもありました。固定する方がメンバーに慣れて発言しやすくなる場合と、入れ替える方が良い場合とありますが、今後、皆さんの要望に応じることができるようになりたいと思います。

- 文学ってこういう風読んで楽しむものなんだなあということが分かった。自分で何か疑問をもち、その疑問をつきつめるために論文を読んで、答が分かったと嬉しかったです。
- 文学はあまり好きではなかったけれど、新しい発見がたくさんできたり、考えたりするのがとても楽しかった。グループでの話し合いで先生からのアドバイスでまた違うことを知れたり、話し合いが進んでよかった。
- 英語の文学に触れることで時代背景や各国における歴史などを考えさせられた。少し読みにくい文章を読むことで読解力の向上が見込めたと思う。初めてのレポートを書くときは、その方針にとまどったが、2回、3回と回数を重ねるごとに自分の興味のある点について深められた。

以上のようなコメントには励まされます。文学はどんな風にも論じることができる題材であることを、もっと伝えて行ければと思います。それは自分が発見することの面白さでもあるからです。発見

したことを上手く論じることができるよう、サポートできればと思います。

- 授業内容がとても興味深く、毎回「なぜだろう・どうしてだろう」と疑問が絶えず、おもしろかったです。しかし、もう少しレポートの書き方などを具体的に教えて頂きたかったです。

疑問をもってもらうことができた点はよかったです。今後もこういった刺激を与えることのできる授業を考えたいと思います。ただ、レポートの書き方について、十分な指導がないという指摘は真摯に受け止め、初年度の授業であることをもっと意識して、わかりやすい説明ができるようにしようと思います。

- 最初に授業内容を説明して流れを詳しく話してくれていたのがよかった。
- 次週の課題など、授業で伝えきれなかった部分はメールで送ってくれた点はすごく助かりました。
- その日やる内容も分かりやすく示しており、分からないことを質問すると、2,3回でも理解できるように説明してくれてとても助かった。
- プレゼンやレポートなど、期間を長めにとって頂けたので、しっかり準備することができたので良かったです。

上記のようなコメントは嬉しく思います。今後もこういった評価が続くよう、準備したいと思いません。

- (長編小説や戯曲など)話の長いものはどこを予習するかポイントを絞ってくれるとわかりやすいです。
- 一つひとつの題材を扱う時間が短く、きちんとした理解を得にくかったので、できたら時間配分の見直しをして欲しいと思う。
- 映画は家でも観られるので一時間すべて映画を見て終わるのはせっかく来たのに残念な気持ちになります。

以上のようなコメントを頂きました。ポイントを絞り、予習を求め、質問するところと、講義をするところの配分をもっと考えるようにしたいと思えます。映画だけを見た回は1回でしたが、これも必要な部分を見て、ポイントを解説するようなスタイルを考えようと思えます。

クラス評価はすべて平均を上回り、コメント大半がポジティブなもので、学生とコミュニケーションは図れていました。特に課題、発表ごとに行った学生へのフィードバックに対して、「フィードバックも非常に分かりやすく、自分の改善点や、グループでどうすればよかったのか、ということが見えました。」「提出物がある時はしっかりフィードバックして下さったので、やりっぱなしにならず良かった」「フィードバックが丁寧で次に活かす励みとなった。スライドが分かりやすく、授業のポイントや今、何を学んでいるのか、次週の課題がすぐに理解でき、そしてその課題や授業にしっかりと取り組めた」「1人1人へのフィードバックも必ずして下さったので有意義な時間でした」などどのクラスでも好意的な意見が寄せられました。また「難しい文章を読むときに、先生が分かりやすく、文法や意味を教えて下さったおかげで、新しい知識を増やすことができた。ヘミングウェイだけでなく、1つ1つの分野に対して、しっかりと説明してくれて、授業の内容も分かりやすかった。」「将来に役立つスキルばかりでとてもためになりました」「自分が留学をするのに現地の情報や目標を明確にするのにこの授業は非常に役に立ったと思う」「授業を通して仕事でつかう英語を学べて、海外で働きたいと思いました」「視野も格段に広がったと思います」というような、学問、将来のキャリア、視野の広がり、英語を使ってコンテンツもしっかり学べたという点を指摘する意見が多く寄

せられました。

特にネガティブなコメントはなかったクラスでも、「昨年度の入門演習と比べて、具体的にかつ計画的に行われていてとてもためになりました」というコメントをいただけてうれしかったです。来年度以降も同じ教材を同じように教えるのではなく、毎年、改善を図っていきたいと思います。

クラスの雰囲気づくりにも注意を払ったおかげで「平等に発言できる機会があることがとても良かったです」「心理的に安心して授業を受けることができました」「適度に質問の有無を確認してくれたので、わからないことをわからないまま流さずにすんだ」「誰かが行動するのを待つのではなく、自分からアクションを起こす大切さをグループワークを含め、授業を通して学べたのでよかったです」という意見が寄せられました。

一方、講義の進捗に対して、同じクラスで大半は「ちょうどよかった」と書き、一人「遅かった」、一人「早かった」という意見があった。人によって早い、遅いのが感覚が違うので、この点は中間値をとらざるを得ない部分もあるが、クラスで話し合いたいです。

課題に対しては「大量の課題があり、全部やるようおっしゃっていたが、結局、時間切れで全ては終わらず、水の泡になったような気分だった。だが、説明は細かく行ってくれたので分かりやすかった。もう少し早く、かつスピーディーな説明をすれば、全て終わってスッキリと片付くと思う」という声から寄せられました（いいわけになるかもしれませんが、実際終わらなかったのは1年次演習の異文化理解の一部ですが、もし認識に齟齬があればその点も含めて次年度以降気をつけて説明、課題指示をしたいと思います）。教科書を使うクラスで「宿題と授業で扱う内容の進み具合を合わせてほしかった」という意見は複数寄せられたので、この点は、個人課題へのフィードバックに時間をかけていると、教科書の課題と、翌週の講義で扱う場所にずれが生じてしまいました。後期からは気をつけ、フィードバックの時間も考慮して課題を出すようにしたいです。

「テキストの回答、投影スライドをウェブクラスで共有してほしい」という声に対しては、課題の回答プリント配布は、万が一、翌年の受講学生などに閲覧されるのは避けたいため、講義内でのスライド掲示、写真撮影許可までと判断しました。スライドも著作権があるものの制約や、学生内で出回することは望んでいないため、共有は現時点では考えていません。「スライド利用時は部屋をもう少し暗くしてほしい」という指摘に対しては、投影時は見やすいように少し暗くするように心がけたいと思います（毎回ほぼしていたはずですが、忘れていたときがあったのかもしれません）。

1年次前期のグループ発表が「日本語」だったことへの指摘がありましたので、来年以降は、英語プレゼンも検討をしたいです。グループワークは、「グループワークが多かったので色々な人と関わって友達も増えて楽しかった」というようにポジティブな意見が大半だったものの、「大変だった」という指摘もありました。特に「グループワークは1回目と2回目で全員メンバーチェンジして欲しかった」とグループ変更の希望もあったので、来年度以降は検討したいと思います。グループ・プレゼンの発表のまとめレポートは個人でほしいという希望がありましたのでこの点も来年度以降、受講学生の意向も踏まえた上で検討はしたいです。

また、「ゲストスピーカーを呼んでの講義をもう少し増やしてほしい」という声も1件寄せられましたが、こちらは学科のゲスト講師を呼べる予算、内規、学期内の到達目標との兼ね合いなどもあり、増やすのはなかなか難しいです。そのかわり、学内外で開催される講演会のご案内などは、積極的に情報共有したいと思います。「文学系かキャリア・イングリッシュコースかを凄く悩んでしまっているのそれぞれの就職した際の役立ち方を説明して頂きたかった」という声も1件ありましたが、これは各クラスというよりも学科全体での検討事項のように思われます。

- 「初めて言語学の世界に触れたが、分かりやすく面白かった。講義の中で登場する豆知識がとても役立つものだった。」「学問的なこと以外にも実践的な知識も学ぶことが出来た。」「言語学についての



知識が沢山身についた。」

この分野に興味を持ち、幅広い知識を得ることが目的の概論の授業ですので、その目的を達することができたようで、うれしく思います。

- 「少人数なのもあって、1人2人の意見や感想を聞く時間があってよかった。自分は気づかないところをクラスメイトは発見しているのが分かって、面白かった。」

時間割の都合で今年度は少人数のクラスになりました。どの授業も目的とクラスサイズに応じた授業展開をしているつもりですが、私自身、少人数教育のよさを再認識したクラスでした。

- 「緊張感があってよかった。」「宿題がかなり多かった。授業が進むのがはやく、理解が追いつかない部分があった。文章のテーマは良かったと思う。」「多分野において教養があって、私たちの意見全てに話題を広げていて、そういう所が憧れです。」「今までは英文学や英語学にあまり興味がなかったのですが、ディズニーの物語を英語学的な視点で勉強した時、とても興味深く、楽しかったです。英語学の良さを知ることができました。ありがとうございます。」「ただ作品を読んで、内容を確認するだけの授業ではなく、そのテーマに合った議論をしたり、英語に関する知識を学べたりすることができたのが魅力的な授業だと感じた。」「文学作品を読む際に、一つ一つの言葉や文に込められた思いを考える作業がとても難しかったが、面白かった。作品を様々な考え方を持って読む面白さを知ることが出来た。」「文章読解だけでなく、グループディスカッションをすることによって自分では想像できなかった意見を聞いて、視野が広がりました。」「様々なトピックに関して授業で扱い、それに関する質問に対する考えを周りの人たちと共有するのは、周りの人たちの考えを知れて良かったです。」

English Studies の4つの分野を順に紹介する授業で、私自身の専門外の分野がテーマの回は準備や授業の運び方に苦労しましたが、なんとかうまく行ったようです。しかも、4つの分野の視点や方法論を複合しつつ学ぶことができるのもこのタイプの授業のメリットであることを再認識しました。

- 「課題で出たプリントで、触れない質問があったり、内容が理解しきれていなかったりしました。話題についてすぐに例が出てきていたのがすごいな、と思っていました。」「先生の話し方が聞き取れなかったところがたまにありました。ちょっとゆっくりしゃべってほしいです。」「私にとって授業が進むのが少し速いと感じました。日本語での解説や周りの人たちとの議論をしたので、授業内容理解を深めることが出来たという点で良かったと感じました。」
- 「議論の機会も多々あり、面白い授業だった。シラバスだけではなく、大きな予習やTASKの提出があるタイミングを記した日程表のようなものを初めの方に配ってほしかった。」

授業の途中で何度か「ここまでで何か質問はありませんか」と問いかけて理解を確認しながら進めているつもりですが、気が付かないうちに早口になっている場合があるようです。今後は、特に留学生が受講しているクラスでは一層留意したいと思います。また、課すTASKなどのスケジュールは学期初めに明示するようにします。

- 発表やレポートの作成に役立つ情報や資料を多く教えて頂いて助かった。
- ステレオタイプについての文献が抽象的で少しわかりづらかった。

最後に扱った分野であったため、やや時間切れで、抽象的な文献について丁寧に補足説明すべきでした。

- レポートの書き方がわかって良かった。
- もう少しレポートの内容や形式を具体的に示してほしかった。

以上のように相矛盾するコメントがあったが、より具体的にレポートの書き方について時間をかけて説明すべきでした。

- 一人ずつ意見を聞いてくれるのが、多くの人の意見がわかって良かった。
  - 一人一人が答える時間が多かったので、答える人数はもう少し減らしてもよいと思う。
- できるだけ多くの履修者の意見を聞くために、多くの学生にコメントを求めたら、以上のように異なる反応であったので、今後バランスを考えながら、意見を求めることにします。
- 次週の課題を出す場合、より具体的な設問をつけたほうが準備がしやすいと思う。
- ポイントを絞って課題を出すようにします。

- ジェンダー研究に興味を持つことができたという記述が多く見られた。
- 文学作品をジェンダー視点からみることに興味をもつきっかけとなった。
- ジェンダーや米文学への興味が深まった。

ジェンダーという言葉から社会学的なアプローチのみ考えていた履修生の多くが、ジェンダー的視点を取り入れた文学・映像作品の分析に関心を示してくれてやりがいのある授業でした。

- 今後の課題内容などを cis メールでリマインドしてもらえた点がとても予定を立てやすくてよかったと思う

cis メールでの連絡方法は、webclass をいまだに使っていないことからくるものなので、携帯などでしか cis メールを見ない学生にとっては添付ファイルなど送られても困るという問題が過去にはありました。ですから、今後は webclass でのよりシステマチックな授業に関する連絡方法を考えたいと思います。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

### ➤ コメントシートやフィードバックへの工夫

- 人数の多いクラスで、通常のコメントペーパーでの対応が難しいと予想されたため、授業全 14 週分を A4 一枚にまとめて記入できるコメントシートを作成して使用したところ、履修者とのコミュニケーション確保が可能なおうえ、コメントシート自体の管理や出欠確認が容易になりました。履修者にとっても、担当教員との簡単なやりとりや QA などが一目瞭然でわかって授業内容を振り返るのにも役に立つ、と好評でした。
- 会話能力の向上には教員と学生の対一での個々人に応じたフィードバックが重要に思えます。前期はテストのように思える対一での会話より、自由な発言で自信をつけるよう心がけましたが、英語能力テストが近づいて来て、スピーキングに関してもっと個人個人に対応したフィードバックを行っていきたいと思っています。
- 今年の授業では皆さんにリサーチ・プロポザルを最初を書くよう求めました。それによって、皆さんが情報収集をする前にフィードバックが行えるようになり、皆さんが感じる問題のいくつかを予め解決することができました。具体的には課題を間違っ理解し、相応しくないデータを集めてしまった場合も方向修正が可能になるからです。

### ➤ 授業内容に関する工夫

- 講義のスピード、コンテンツのボリュームなど受け止め方に個人差があるので、その点は、どこまで個人希望を全体に合わせられるか、あるいは全体でコンセンサスをとれるかを、講義内で教えるボリュームも踏まえながらクラスの内容を考えています。
- 授業で扱う内容を学生が自分の体験などと結びつけて考えることができることが重要であると考えます。従って、例えば "To a Waterfowl" という詩を書いたとき、詩人の William Cullen Bryant は職探しをしていたと思われるが、そういった背景を伝えることで、皆さんが就活と結びつけ、自分

の体験と結びつけ理解できるよう工夫しています。

- 留学準備のための授業は教材（特に視聴覚教材）を工夫しています。自分の経験をふまえて、留学に対する考え方や「通じる英語」を話すためのヒントなども交えて話しています。

➤ 授業の進め方に関する工夫

- グループワークは皆さんからの評価も高く、クラスの運営方法としてとても有効だと考えます。その際のポイントは、各自が自分の意見を述べ、かつ相互に新たな発見を行っていくことです。したがって、基本的には教えるというスタンスに立つのではなく、ファシリテーターの役割をと思っています。ただ、皆さんから出てくる意見を尊重しつつ、その先に踏み込むためにはどのようなアドバイスができるか、自分の引き出しを増やすよう心がけています。

- 夏休みの課題を出し、後期の成績の10パーセントをその課題で判断することにしました。皆さんのやる気を刺激できたように思います。

- 一年次のクラス、特にFirst-Year English Seminarにおいて英語を使うよう学生の動機づけを行うため「三振」法を使っています。日本語を使うと名前を黒板に記し、3回日本語を使うとパートナーが選ぶトピックについて英語で1分スピーチを行う方法です。黒板に記すことで日本語を使うことを抑止する効果があります。

- 従来から講義でも学生と対話しながら進める方式を取ってきましたが、ペアによる議論も随時取り入れるようにしています。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月28日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	人文学科哲学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	黒崎 政男
検討会実施日	2019年10月2日
出席者数	5名（内、非常勤講師1名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

1) 複数の授業について、授業内容について、話と話のつながりが見えにくい、という意見がありました。また、授業内容とは関係のないように思える話がある、という意見もありました。これは基本的には、学生の側に「理解できないのはまだ自分の理解力が不足しているということ」という自覚が足りないことを意味します。また語られている話題が無関係に感じられるとしたら、基本的にはそれも授業の内容の理解が足りていない、ということの意味します。同授業について、個別的具体的な話から授業内容につながっていく授業のやり方だったので、授業内容に興味を持ちやすくとても分かりやすかった、という意見もありました。さらには同授業について、内容がかなり基礎的で分かりやすいので、もう少しハイペースで進んでもよい、という意見もありました。このように、哲学という学問内容については、学生の理解力に大きな差がある、ということに留意しながら授業を進めたいと思います。

2) チャイムがなくても演習が続いていることがあります。時間通りに終了してもらいたいです、という要望がありました。この要望は前回から続いているものです。受講者全員に発言を求めており、有益な質疑応答が続くことがあり、途中で断ち切ることが難しいのですが、今後はあてる人数などを調整しながら、可能な限りチャイムがなったら終了するように努力します。

3) 黒板を使って分かりやすく解説してもらったので、授業内容について理解が深まった、という意見、また、話の筋がとても難しいので、板書で整理してもらおうとうれしい、という意見がありました。「板書」という時間の流れのなかで生成する内容は、発信者（教師）と受容者（学生）が共有的に内容を把握するためのきわめて重要な手段です。今後とも授業における板書の有用性を生かしながら授業を進めます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

今回も、授業評価アンケートの専攻別集計結果をみると、設問1（出席の程度）についてみると、「すべて出席した」「1～2度欠席した」を合わせると、9割以上となっており、出席に関しては良好な結果となりました。設問3・4のシラバス関係も「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせると9割に達しており、シラバスに基づく授業の展開、およびシラバスの有効性が示されたかたちとなりました。

設問13「総合的満足度」も「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせて9割を超えており、哲学専攻の学生たちの満足度がきわめて高いことがわかります。

問題点としては、やはり 設問2「教室外学習の時間」ですが、「全くしていない」が4割をこえ、「週一時間以上」でも二割に届かない結果となりました。この件は積年の課題ですが、なかなか有効な方策が見つかりません。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年1月6日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	人文学科日本文学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	今井 久代
検討会実施日	2019年12月18日
出席者数	7名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

- ・新課程の学生は半期しか履修できない講義科目がありますが、それについては、代わりに半期完結の演習科目を新たにいくつか設けましたので、そちらを履修して下さい。
- ・「授業のサブテキストを必修で購入したが、授業内で使用されなかった」とのことでしたが、これは授業内等で指示があったように、各自が確認テストに向け事前に学習するために使用するものでした。
- ・「事前にプリントが配布されるとわからなくなる、授業内で使用するだけの分の方が良い」との要望もありましたが、これも事前事後学習で使用することを想定して、先の方まで配布することがあります。「プリントがわかりにくい」という声もありましたが、初見では関連等がわかりにくくとも、学びを深めればわかってくるはずです。わからない場合は、事前および事後の学習で理解を深めて下さい。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

- ・WebClass を使用しての授業については、さらに一部増やしています。プリントをそちらから(も)入手できるほか、レポートなど課題の提出、全体へのフィードバックなどで利用しています。
- ・人文学基礎演習そのほか、演習の授業を中心に、相互が発言し、お互いの意見を聞けるような形の授業を増やしています。履修者の多い演習では、グループで発表し、グループ内でまず意見交換をして、全体のディスカッションとする授業も行われています。全体として、フィードバックをさまざまな形で行う授業を行っています。
- ・特に、Slido を使って授業内のその場で皆さんの意見を拾って全体で共有するという授業については、積極的に授業に参加できて良かったという声がありました。

# 「2019 年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019 年 11 月 30 日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	人文学科英語文学文化専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	野村恵造
検討会実施日	2019 年 10 月 10 日～10 月 23 日
出席者数	16 名（内、非常勤講師 4 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

学生への直接的なフィードバックだけではなく、先生方が行っておられる工夫も含めて、寄せられた情報をそのまま掲載しました。ただし、一部、文言を調整し、また、学生のコメントとそれに対する教員の回答が明確に分かれている場合は、「学生のコメント→教員の回答」としました。

初めてこの授業を教えました。学生評価の自由記述欄に要望と好評だった点の両方の記述がありました。授業では、様々な視聴覚教材を使いながら、毎週演習形式で、毎週異なる課題を学生がディスカッションをしながら進めています。主に次の三点に関するコメントがありました。好評だった理由として「課題の分量が程よく、映像も多用していたため、興味を持って取り組むことができた」というのがありました。要望としては、「最後に何を結論づけていいのかこの授業だけではよくわからなかった」という意見がありました。他の点として、「時々説明が一方的で矢継ぎ早なので何を言っているのかよくわからない」という指摘もありました。

→来年は、授業で目標とすることが伝わるように工夫するつもりです。その他、説明が矢継ぎ早で、なにを言っているのかわからないという点については、説明の仕方を工夫しようと思います。課題の解答を配布しているので、説明の時に読み上げるのではなく、説明をもう少し噛み砕いてする予定です。

「みんなでディスカッション楽しかったです」

→グループ・ディスカッションの発表を聴くと、あらためていろいろな見方があったことが分かって興味深く思いました。毎回のハンドアウトも整理されていて、理解と更なる疑問にも繋がりました。

「アメリカ文学作品の面白さを知ることができました。」

→良かったです。短編 3 作品からアメリカ文学ならではの特徴などを紹介できるクラスになっていたら嬉しいです。今後の長編作品ともあわせて、アメリカ文学への関心を深めていきましょう。

「ゆっくりじっくり教えてもらえて嬉しかったです」「丁寧な説明でわかりやすかったです」

→再履修者を対象とする小さいクラスでしたので、毎回各人の理解度を確認しながら、ゆっくり進めました。結果的にシラバスより遅れてしまいましたが、無理やり進めるより良かったのではないかと考えています。

「先生の人柄はとてもよく生徒への気づきも感じられてうれしかったです。授業の内容がむずかしすぎました」

→このコメントが、この授業の評価の結果を端的にまとめてくれています。今年度、この授業では新しい教科書の使用を試みましたが、関連科目の「講義」を受けていない 3 年生の皆さんにとっては難しすぎることが判明しました。適宜こちらで説明や補足をすることで何とかやってきて、4 年生のみなさんや 3 年生のごく一部は理解が追いついたことがうかがえますが、限界がありました。教科書の選択ミスについては申し訳なく思います。

「初めて言語学の世界に触れたが、分かりやすくて面白かった。講義の中で登場する豆知識がとても役立つものだった」「学問的なこと以外にも実践的な知識も学ぶことが出来た」「言語学についての知識が沢山身についた」

→この分野に興味を持ち、幅広い知識を得ることが目的の概論の授業ですので、その目的を達することが

できたようで、うれしく思います。

「少人数なのもあって、一人一人の意見や感想を聞く時間があってよかった。自分は気づかないところをクラスメイトは発見しているのが分かって、面白かった」

→時間割の都合で今年度は少人数のクラスになりました。どの授業も目的とクラスサイズに応じた授業展開をしているつもりですが、私自身、少人数教育のよさを再認識したクラスでした。

「スライドの文字小さすぎ。要点まとめて書いてほしい。配布資料の配布で授業時間が大幅に削られてしまっている」「双方に不利益だから WebClass とかでオンラインで事前に配布すべき」「短い間にとっても濃密な内容を学ぶことができました。とても深く興味をもつことができました」「授業で扱う内容が多すぎて、内容を理解しきれない。もう少し内容をしぼって深くしたほうがわかりやすい」

→残念ながら、本学でこの講義科目を担当するのは 2019 年前期が最初で最後です。工夫改善の余地はありましたが、S をほとんどつけない私が 10 名近い学生（登録人数 103 名）に S をつけるほど、毎時間熱心に講義を聞き、期末試験では、（一方ではゼロ点またはゼロ点に近い学生がいましたが、他方で）満点または満点に近い学生が相当数いたことを忘れないでしょう。

The average score my course received was 3.8. I am quite satisfied with this and I think the students feel that I put a lot of time and effort into this course. This year I asked the students to write their research proposals first. This step enabled me to give the students feedback before they started collecting data. This step helped fix some problems the students had. For example, if the students misunderstood the assignment and/or attempted to collect data that would not help them to write an essay that focuses on linguistics, there was still enough time for them to revise their plan and produce a better research paper. In addition, asking for an annotated bibliography first, then a research proposal, and finally, a complete essay (as one assignment in 3-4 steps, with revisions) worked well last semester.

Overall, my students' responses were very positive, with scores all higher or significantly higher than the average. The comments generally also reflect this. I am happy with the positive student feedback I received and will keep doing my best to look for ways to further improve my classes.

In the first semester I use short lectures, exercises, and student group work to try to ensure that every student has a suitable student-selected text or set of texts appropriate for Cultural Studies research by the end of the first semester, has done something like systematic searches for helpful secondary material in the TWCU Library OPAC and databases, has compiled a sound 'Working Bibliography' of all sources primary and secondary, and can explain in an end-of-semester examination something of the history of the text or texts at the centre of the research.

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

以下のような事例および効果が紹介され、専攻の教員間で共有しました。今後も教員の間で有益な情報交換を行う試みを進めていきたいと考えています。

授業改善に向けた具体的な方策についてですが、授業評価のほとんどの項目が、学内の平均に達しており、「教員の話し方は聞き取りやすかったですか」という項目だけ、学内の評価の平均に満たなかったです。この傾向は、前回も同じだったので、授業では、聞き取りやすいように工夫をしたつもりでしたが、今学期は成功しませんでした。ひきつづき工夫しようと思います。いつも思うことですが、話し方を変えるのは難しいようです。

毎回授業終了時に、学生がコメントを書き、講師が次の授業を紹介しコメントを行っています。コメントを通して学生がどのような点がおもしろかったのか、授業が理解できたのかどうかや、疑問に答えることができるほか、授業の振り返りを行うという意味で、効果があるので、引き続き行っていきたいと思います。

グループ・ディスカッション発表と作品や作家、背景などに関する講義とのバランスがとれているようにクラス中での時間配分をとっています。

アンケート結果を見て思うのは、グループ活動はかなりの評価を得ていること、学生によってはグループを題材ごとに変えることを望んでいることなどがわかりました。英語文学文化専攻の場合も3年次ゼミなどはグループ活動を中心としてきましたし、グループ活動を多く取り入れることには基本的に肯定的な評価でした。しかし、グループの変更を望む声はそれほどなかったので、新しい傾向かも知れないと思っています。

「授業内容が、よく理解できましたか」という項目の評価が平均を下回っています。現代批評理論を扱うので多少の難解さは避けられないと言わざるをえません。もっとよく理解できるようにするためには、文学作品への応用例を増やす、扱う理論を減らすなどの方策があると思います。担当科目に限定しない授業改善等に向けた具体的方策としては、学生さんの反応がよい WebClass の利活用の推進があると思います。

テキストを中心に、関連する他の作品の紹介、歴史的背景や思想などを理解するための補助教材の活用など、多角的に理解できるよう努めました。また、主要な章のポイントについて、事前に設問を提示し、学生が小ペーパーを提出、それに基づきディスカッションを行い、理解の向上と活性化に努めました。

主要な章のポイントについて、事前に設問を提示し、学生が小ペーパーを提出、それに基づきディスカッションを行い、理解の向上と活性化に努めました。

少人数クラスでしたので、各人の理解度を確認するために、テキストのすべての練習問題を宿題にし、提出してもらいました。解答を添削し、質問事項についても書いてもらってコメントをつけて返す方法を取りました。各人の理解度がよくわかり、私自身が大変勉強になりましたが、クラスサイズが小さかったので、できたことでもあります。大人数クラスの場合は、別の工夫の仕方が必要だと思います。

従来から講義でも学生と対話しながら進める方式を取ってきましたが、ペアによる議論も随時取り入れるようにしています。また、留学準備のための授業は教材（特に視聴覚教材）を工夫し、自分の経験をふまえて、留学に対する考え方や「通じる英語」を話すためのヒントなども交えて話しています。

To incentivise students to use English in the classroom, I adopted a "three strikes" approach to using Japanese in class. If a student uses Japanese once, their name goes on the board. If they use Japanese three times, they have to speak for a minute in English about a topic their partner chooses. So far, just having their name on the board seems to be enough to stop students using Japanese in the class.

To avoid the class atmosphere becoming too quiet, I emphasise to students that speaking English with other students is really important for boosting their IELTS Speaking grades and is a great opportunity for them, as they are not in a country with many English speakers to practice with. I've found it to work very well and have also begun to use this system in other classes, such as Listening and Presentation.



# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	人文学科歴史文化専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	高田 陽介
検討会実施日	2019年10月23日
出席者数	7名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答） 学生・WEB 開示

受講学生からの指摘に、「パワポの文字数が多い」「レジュメがわかりづらい（見にくい）」といった記述がありました。「パワーポイント」やレジュメの情報量については、とくに、主題が学生たちにとって馴染みの薄い領域（高校や受験の「日本史」「世界史」ではほとんど言及されない、など）である場合、その基礎データ不足を少しでも埋めることを狙って多めにしがちなのですが、限られた時間内での説明・解説が必ずしも行き届かない難しさがあり、資料の多さがただちに授業内容の難しさにつながってしまったようです。どの授業でも、担当者は、提示する資料の内容と量を精査し、分かりやすいレジュメや「パワーポイント」作りに留意します。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

16年度後期以来、史学専攻・歴史文化専攻では下記の3点を掲げ、重点的に取り組んできました。

- (1) 参考文献の紹介・指示は、ひきつづき丁寧な実施に取り組みます。シラバスへの掲載だけで済ませず、授業中に学生たちへ直接案内し、しかも口頭で済ますことなく、最低でも板書し、可能な限りプリントを用意して配布します。
- (2) 講義科目において、質問時間の確保を図り、また、積極的に受講者に質問を促します。当座での発言の引き出しが進まない場合には、質問用紙の配布・回収といった手立ても考えます。
- (3) 演習では、報告者以外にも何らかのコメント書面の準備（さらにはクラスへの配布）を課すことも促進します。

上記3項は、個々の専攻科目において程度の差はあるにしてもひきつづき課題でありつづけており、粘り強い継続的な取り組みの必要性を、専攻内で認識・共有しています。

(1)の参考文献データの提示については、シラバスの様式変更にもなって、あらかじめ参考文献とその利用をシラバスに明記する担当者が増えており、また、学期中に配布プリントで提示する担当者も多くなっている中、依然として一部教員に、当座に思いついた文献をあやふやな記憶だけで紹介するふるまいがあり、やむを得ずそのような紹介となった場合には、必ず次回に正確な文献データをクラスに再提示することを、専攻内で確認しました。また、文献データの板書が行なわれた回にたまたま欠席した受講学生に対する手当ても、依然として不十分だった事例が教員から申告されており、ひきつづき、必要な文献データはプリントに明記して配布する、という水準へ揃えるべく、努力をつづけます。

(2)の講義科目での質問時間の確保も、ひきつづき一部教員が実現できておらず（つい、授業時間いっぱいを使って語ってしまう）課題となったままです。以前から、時間切れによる質問タイムの省略を回避するため、講義の最後に質問を受ける形ではなく、途中でインターバルを設けて質問を促す、という形を試みる教員もあり、大いに参考とすべきなのですが、自身の授業に有効に取り入れることができていない教員もいます。質問紙の提出は、それが出席の証明になり、また記述内容自体も

成績評価の対象に含まれ得ることから、受講学生にとって重要な問題となるため、扱いの難しさを感じて採用を見送っている教員もいます。

(3)の演習における報告者以外からの積極的参加については、コメント書面とは別に、報告担当者に前の週の授業でレジュメを配布させ、報告者以外にも目を通して予習して来させた上で、授業での報告への質疑・コメントを促す、といった方式を採りつづける教員もいますが、依然として、実際の授業では教員の質問に対する報告者自身からの応答が中心となっているようです。これに対して、報告担当者とは別にコメント役を指名し、場合によっては報告者の準備内容を事前に（当該の授業回の前に）共有させた上でコメントを用意させるなど、コメンテータの活用についてさまざまに工夫が試みられているようです。

# 「2019 年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019 年 10 月 28 日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	国際社会学科国際関係専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	轟 莉莉
検討会実施日	2019 年 10 月 23 日
出席者数	11 名（内、非常勤講師 0 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

ある講義では、毎回出席カードを配り、学生からの質問やコメントを集め、それを整理して次の授業において質問に回答するなどのフィードバックを行っています。この取り組みは、「他の受講者の考え方を聞ける」ことなどから、学生から高い評価を得ました。そのため、専攻内の教員間でこのやり方を参考にし、今後は他の授業も採用することを検討しています。

授業において新聞記事や時事問題を扱った資料の配布は、好評を得ました。講義と関連する資料の配布は継続的に行いますが、いずれは履修者自らがそのような記事に注目できるようになることがもっとも重要なことなので、授業を通して学生の時事問題に対する関心を育てることに心がけます。

演習では、「現代につながるような話を何度もできたし、過去の国際関係についても学べたのでとても有意義な時間だった」とのコメントを得ました。演習では可能なかぎり履修者の自由な発言や質問を奨励するようにしています。

教員の声が大きすぎるといった意見が寄せられました。マイクの音量を下げるなど、学生が授業を聞き取りやすい環境を提供できるよう改善に努めます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

昨年度までのアンケートにおいて、板書が見にくいという意見が見られたことから、その情報を教員間で共有し改善に努めました。今回のアンケート結果を見る限り、状況は改善したと思われます。ただし、教員の声量に対する意見はまだ寄せられていることから、より適切な授業環境を目指して改善を続けます。

学生の授業への積極的な参加を促すため、授業によっては学生を頻繁に指名し発言を求めています。授業への参加は本来学生が自発的に行うべきものではありませんが、本専攻では「指される」ということで学生が主体的な学びを行うことにも意味があると考え、上記のような工夫は今後も積極的に取り入れていきたいと考えています。

履修者が 100 名を超えるある講義では、「WebClass を利用してほしかった」との意見をいただきました。この点については、レジュメの配布などの手間と時間を省くためにも改善すべきであると考えましたので、後期からは WebClass でのレジュメ配布を開始しました。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年1月7日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	国際社会学科経済学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	二村 真理子
検討会実施日	2020年1月7日
出席者数	7名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

- ・ 黒板の文字が見にくいです。  
見やすく書くようにします。
- ・ パワーポイントのハンドアウトの文字が小さくて見えません。  
改善します。
- ・ 配布物のサイズをそろえてほしいです。  
できるだけ対応するよう試みますが、難しい場合もあるので理解してほしいです。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

- ・ 次回のプリントも前の週のうちに配布するようにして、予習ができるようにしました。ただし実際に使用する際に忘れる学生もいるため改めて配布する必要があり、少し手間がかかっています。
- ・ 授業に関連する身近な組織や団体を事例を含めて説明するようにして、学生の理解が深まるように工夫しました。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年1月6日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	国際社会学科社会学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	金野 美奈子
検討会実施日	2019年10月2日
出席者数	4名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

演習形式の授業で「発言者に偏りがみられる」との指摘がありました。担当者はなるべく多くの人が発言機会を得られるよう、よりいっそう配慮します。学生のみなさんも、予習の段階で疑問点やコメントをあらかじめ整理してくるなど、さまざまな機会をとらえて発言できるように事前準備をしっかりとって授業に臨んでください。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

### 【講義科目】

・引き続き「理解しやすい授業づくりをめざす」という目標を確認し、学生の関心を喚起し理解を促すとともに、学生が自ら学びを深めるきっかけとなる取り組みを共有しました（豊富な具体例の提示、聞き取りやすい話し方、理解を助ける教材の工夫（配布資料、スライド・画像・映像資料）、質疑応答や対話の時間を積極的に設けるなどの双方向型授業、さらに理解を深めたい人向けのヒントや参考文献の提示など）。フォントの工夫で配布資料をいっそうよみやすくする取り組みが受講生に好評だった事例を共有しました。

・受講生の理解度の幅を考慮した、適切なレベル設定について引き続き留意します。合わせて、授業のレベルよりさらに上を目指すためのヒントの提示、基本事項の理解不足を埋めるための助言を適宜行います。

### 【演習科目】

・全員にいっそうの参加意識をもって臨んでもらうための取り組みを引き続き行っていきます（学生による自主的なクラス運営、小グループでのグループワークやディスカッションなど人数の比較的多い演習でも全員が参加しやすい工夫など）。

・小グループワークを取り入れる際には、グループの組み方やグループ替えの頻度を工夫し、受講生のよりいっそうの積極的参加をサポートしていきます。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月16日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等  
学科・専攻主任、所長、委員長等  
検討会実施日  
出席者数

国際社会学科コミュニティ構想専攻  
伊奈 正人  
2019年9月24日 および 10月8日  
5名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

ハンドアウトや教材提示の工夫については、できる限り改善はしたいとは思いますが、学生が教室外学習において、課題に取り組むなどして、教材を再整理することを課題としているということもよく理解して欲しいと思います。

理解度のチェックを随時行ってほしいという指摘がありました。学生のコメントや理解度チェック回答にコメントし、それを累積する学生別シート、いわゆるシャトル型の教材の工夫などを一つの理想型として、工夫できるところは工夫してゆきたいと思います。

実践型の授業については、その前提となる基礎知識を体系的に教えて欲しいという希望がありました。この場合も、本を読んでから実践するというのではなく、実践してから本を読むという発想の転換と、応分の教室外学習が必要ということを理解いただきたいと思います。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

大学全体でのFD研修などの成果も取り入れ、どのように新しい魅力的な教育の方法を実践的に採り入れるかを工夫してゆきたいとは思いますが、他方で教員側の教育方針や言い分などもあります。たとえば、あまり大がかりな装置やメソッドを用いるのではなく、どこでも誰にでも使える方法で教える、といった方針は、フィールドワークなどやワークショップによる授業においては重要なことです。こうした細かいところの相互理解ができるようなチェック体制を整えることを先ずは行いたいと思います。

具体的には、実践的研究計画法の授業で、こうした相互理解や学びの実践の省察を行ってゆくことになります。これは、2020年度の授業からはじめてゆくつもりです。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月7日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	心理・コミュニケーション学科心理学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	森田 慎一郎
検討会実施日	2019年10月2日
出席者数	8名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・「一般実験演習（調査法）」では、「2コマ続きのハードな授業なのに、半期で2単位というのは不公平ではないか」という自由記述がありました。これは、大学設置基準における単位数の計算方法が、実験などの科目と、講義などの科目では異なることに起因しています。したがって、単位数を変更することはできないため、その点、理解していただければと思います。

・「心理的アセスメント」では、「レポートのフィードバックをもっと行ってほしい、できれば個別に行ってほしい」という自由記述がありました。現在は、4本の課題レポートのうちの2本について、個別ではなく全体の傾向（例；書き方など）について気がついた点を中心にフィードバックを行っていますが、これ以上のフィードバックを行うための授業時間を確保することは難しいと考えております。また、個別のフィードバックについては、個別の添削を行うだけの余裕がないため、やはり難しい状況です。したがって、現在のフィードバックの方法を継続していかざるを得ないと思っておりますが、全体の傾向について説明するなかでも、個々人が次回のレポートをより良いものとするのに役立つようなコメントができるよう工夫したいと考えます。

・「臨床心理学概論」では、「授業のなかで、講師がテキストを読み上げる時間が退屈である」「テストの内容が教科書を覚えるということに意味があるのか」との自由記述がありました。授業のなかでも説明したとおり、本科目は、公認心理師科目であることも影響して、内容が規定されているところがあり、国家試験対策の側面を少なからず持たせ、重要キーワードの暗記を求めました。そのため講師としては、テキストに沿って、教え忘れのないように、時に試験に出やすい重要な箇所は読み上げることで明示しながら、やや網羅的に授業を進める必要がありました。授業内容にあわせて、映像資料のなかで適宜役立つと判断したものを積極的に取り入れたことについて、「理解が深まるので良かった」「分かりやすく学ぶことができた」との自由記述と「時間つぶしではないか」との自由記述があり、学生の受け止め方が分かれました。指定したテキストを主教材とし、パワーポイントはテキスト内容に関連する写真や映像を示すための副教材的に利用したことで、「パワーポイントの資料をもっと多く見せてほしい」との自由記述があり、パワーポイントの量を増やしたいと思います。以上、いただいた自由記述の内容をふまえて、今後は国家試験対策という側面をゆるめ、学生が興味を持つようなトピックスを盛り込むなどしてみたいと思います。

・「心理学概論」では、「映像などを通して、実験道具を見ることができて良かった」などの自由記述がありました。一方、「授業のペースが速い」という自由記述もありました。より多くのことを知ってもらおうとして、少し内容を詰め込み過ぎた可能性もありますので、今後は内容を厳選することにも配慮したいと思います。

・「3年次演習（心理学）」では、「同じ科目でも、担当講師によって進行方法が異なることに不満を持っている人もいるのではないか」という自由記述がありました。「3年次演習（心理学）」は担当講師によって扱うテーマや進行方法が異なっている科目です。演習という科目の性質上、人数制限があるため、場合によっては第1希望でないゼミを受講することもあるかもしれませんが、ゼミ決めの際に入念にシラバスを調べるなどして、なるべく自分の希望に近いゼミを受講していただければと思

ます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

・前は、例えば演習の授業で、レポーターが担当箇所を発表した後に、そのレポートに対するコメント（疑問点を含む）を一人だけで考えるのではなく、グループで検討することによって、より建設的なコメントとなり、そのコメントを受けたレポーターとそのレポーターの属するグループの主体的な取り組みに良い影響を与えていることが確認できました。今回も、特に演習の授業を中心に、「グループワークが充実していた」「他のグループからの指摘によって理解が深まった」などの自由記述が提出されており、やはり、グループでの取り組みが授業への主体的な取り組みを促進していると思われるので、今後も、この取り組みを継続していきたいと考えます。

・全体を通して、図表などを示したり、配付したりすることや、映像を使用することが、学生の理解を深めることに寄与していることが読み取れたので、今後も、継続していきたいと思えます。



# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月14日

学科・専攻、研究所、科目運営委員等

心理・コミュニケーション学科コミュニケーション専攻

学科・専攻主任、所長、委員長等

齊藤 慎一

検討会実施日

2019年10月9日

出席者数

14名（内、非常勤講師 0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB開示](#)

### 【専攻講義科目】

・「難しい内容だったので少人数のクラスで良かったと思います。」「他のグループのプレゼンテーションが参考になりました。こどもの言語発達はとても興味深い内容でおもしろかったです。」「みんなステキな人たちばかりだったのでとても楽しかったです。」というコメントがありました。初めてコミュニケーション専攻の専門科目を担当したので緊張しましたが、履修生がとても協力的で助けられました。学期末近くにコミュニケーションできるようになってきたと感じました。

### 【演習科目】

・「日本語で行っても難しい内容なのになぜ授業自体を英語で行うのか、目的がよく分からなかった。」というコメントがありました。担当教員の考えとしては；日本語よりも英語のほうが集中する、ただし講義が下手だと眠りに落ちる、というメリット・デメリットがあります。講義を工夫して英語に触れる機会は確保するようつとめます。

演習科目で「担当者はもっと日本語による解説・指示を増やした方がよいと思いますか」

という設問に対して「非常に・ある程度そう思う」の回答が8割を超えていた一方、「履修者が英語を使う機会を増やした方がよいと思いますか？」という設問に対して「非常に・ある程度そう思う」の回答が5割を超えていました。

科目差、個人差もあるとは思いますが、担当者がたくさん英語で話すより、参加者が英語で発信する機会を増やす工夫を考えてみたいと思います。

・「今まで触れることがなかった分野を学ぶことができ本当に良かったです。一番興味関心のある授業でした」「発言する機会が多くあったのが良かった」「周りの人の意見を聞きつつ、考えられました」「自主的に行動し、授業外でも授業で扱ったことについて考えられるようになった」「生徒が主体性をもって授業に参加できるよう、毎回工夫されていた」というコメントをもあり、今後も具体的な課題を提示して解決策を探る経験や体験を学べるように具体的な事例を用意して提示します。

演習授業に関し、学生がおそらくこれまであまり触れる機会がなかったであろう様々な社会的問題を取り上げ、できる限り、学生同士による対話や議論を引き出すように努めました。

一方で、「レポートの書き方を授業内でやってほしかった」というコメントがありました。今後は話し合いによる対話に加え、書くことを通した対話にも力を入れていきたいと思います。

・「課題の見方を変えアイデアにつなげる考え方や、人と意見を交換することで新しい問題点を発見でき、よりアイデアに磨きをかけることができるというゼミで学ぶことの良さをたくさん学ぶことができました。」「昨年のゼミに比べてとてもゼミ自体の雰囲気良く、楽しく、でもやる時にはやるというようなスタイルが私には合っていて、コミュニケーションをより効率的に学び、考える場となりました」

た。ありがとうございます」というコメントをもらいました。ゼミのメンバーの結束が良くて助けられました。

新規開設科目「SNS コミュニティデザイン」

この科目はグループワークを中心とするため、グループワークに関するコメントが多くあがりました。

「グループの人数が8名は多い」「グループによってPCを持参できる学生数が異なる」

来年度のシラバスでは、「PCを持参できること」を履修の条件として明記します。また、本年度は履修者が多かったためグループあたりの人数を多くしました。理由はグループ数が増えるとグループ発表がしづらくなるためです。来年度は発表の方法を検討し、グループの人数を少なくできるように努力します。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

「難しい内容だったので少人数のクラスで良かった」「今まで触れることがなかった分野を学ぶことができて本当に良かったです。一番興味関心のある授業でした」「とても興味深い内容でおもしろかったです。」「みんなステキな人たちばかりだったのでとても楽しかったです。」

上記コメントを受けて、課題の見方を変えアイデアにつなげる考え方や、人と意見を交換することで新しい問題点を発見でき、よりアイデアに磨きをかけることができるというゼミで学ぶことの良さをたくさん学んでいただけたので、クラスで自由な発言がしやすいような雰囲気作りを継続したいと思います。

「周りの人の意見を聞きつつ、考えられました」「発言する機会が多くあったのが良かった」

上記コメントを受けて、できる限り、学生同士による対話、議論を引き出すように努めます。

グループワークをしやすいように、次年度のシラバスにはグループワークをするための諸条件（PC持参が必要、グループで報告書を作成すること、など）をわかりやすく記載します。

・演習や講義のときに学生から出てくる意見をどう生かして伸ばしていくか？議論を噛み合わせていけるか？ということは難しい課題ですが、今年度2年次演習で、お題を英語の短い時事問題にして、それをきっかけにして課題をみつけて、解決策をデザイン的に考えて発表し、それをネタにゼミ全体で議論するという図式は割合とのりやすかったのかもしれないと思いました。

・授業時間だけでなく、それを発展させて教室で始まったものが、教室を出て広がっていく、教室の外の世界に影響を与えるという形にもっていけると学生の学習や努力が自己効力感につながっていくのではないかと考えています（実際には、全部がうまくいくわけではないのですが）。

・授業毎に受講学生に振り返りを書いてもらい、その中から何名かの学生の振り返りを紹介しています。コメントを加えることもありますし、振り返りの中に質問があれば答えるようにしています。

・比較的大人数の授業であっても授業中にペアワークやグループワークを取り入れ、その結果を全体共有してもらうようにしています。少しでも学生が主体的に授業に参加できるよう努めています。

・授業内容に関連している学内外で開かれるイベントや講演、研究会などを紹介しています。例えば、日本語教員養成課程の学生には日本語活動（難民、留学生、日本人学生、大学院生などが参加）を紹介

し、入れ替わりで多くの受講学生が参加しています。その他、UNHCR の難民映画祭も毎年、受講学生に案内していますが、映画祭で映画を見ることで授業での学びを深めている学生がいます。今後とも、こうしたイベントや講演、研究会などを紹介していきたいと考えています。

・教室によって機器が異なるので PC 接続などに時間がかかる事に対して「機械音痴」とのコメントがありました。教室で早く準備したくとも前の授業や昼休み中の就活説明会等が長引いて入室できない場合もあり対策に困っています。できる限り早めに準備をする、業者のフォローを得るなどの工夫をします。

・毎回の講義で、任意でコメントや質問を書いて提出してもらっています。翌週までに全てのコメントに目を通し、まとめて、受講生にも読んでもらうように資料として配付しています。同じ話を聞いても他学生がどのように感じているかを理解してもらえます。毎回、このコメントまとめを楽しみにしているとってくれる学生もいます。説明が曖昧だったところなど学生が誤解している点がすぐ分かるので次回授業で質問に回答して誤解を解いて説明を加えることができます。授業中に解説できなかった場合でも、持って帰って帰りに読んでもらえるように紙で資料として配るようになっています。アンケートの感想のところにあれがよかった、理解が深まる。など書いてあると以降の授業にも評価された工夫点を採用します。対話的になるようコメントをなるべく返すようにしています。

・授業で 30 分くらい映像などみせてコメントを書かせることをしています。誤解や勘違いなどは口頭でフィードバックしています。他学生のコメントを共有するのは、教員にも学生にとっても多様な意見を知る機会となり、学習の幅を広げ、学習を定着させる効果が実感されます。履修者数が多いので翌週までに全てを記録してまとめて資料として用意することまでは困難ですが、何らかの形で必ずフィードバックをするように今後も勤めます。

・お互いのニーズや困りごとなどをペアでインタビューします。「課題が多くてこなしきれない」というコメントがありました。シラバスでは「授業外学習時間は 120 分」だと知らない学生が多い。それぞれになぜ多く感じるのか？と聞いたら、アルバイトやサークル活動などで時間がないと訴えます。不満やコメントをただ書くだけでなく、自分で考えて、どうするべきか、どうやって解決するかなどまで考えさせます。そうすることで、すぐに根本的解決まで至らないですが、学生の態度は少し変わったと感じます。ゼミなら少人数でじっくり議論できるためこのような改善ができました。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月4日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	人間科学科言語科学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	松尾 慎
検討会実施日	2019年9月25日
出席者数	8名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・「（授業のメーリングリストにおける）メールが多すぎる」というコメントをもらいました。授業内容に関する連絡や授業と関連する催しの案内など必要のあるメールのみを送っていました。しかしながら、「多すぎる」という印象を持った学生がいるのも事実ですので、メールの件名の書き方など工夫し、どのような性質のメールであるかわかりやすくするよう努めます。

・「授業の進め方が早すぎる」というコメントがありました。これは、場合によっては、予定している内容を網羅するために説明の言葉が足りなかったりすることがあったためかと思います。今後は、授業展開のペースを考慮するように努めます。学生の皆さんも、事前学習を充実させることで話についてきやすくなるかもしれませんので、事前学習時間の確保をお願いします。

・「質問しやすいアットホームな雰囲気です。」というコメントがありました。どの科目でも、履修者の質問は教員を含めて全員の理解を深めるのに役立つことを知りながら、伝えたいことがたくさんあってしばしば担当が一方向的にしゃべりすぎてしまいます。授業の雰囲気はみんなで作るものなので、そういう雰囲気を作れる人たちと一緒に勉強する機会を与えられたことに感謝しています。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

・前回の検討会で、他ゼミで「ゼミ日誌」の取り組みについて教えてもらい、今学期、ゼミで取り入れました。毎回、学生自身の振り返り、教員との密なコミュニケーションのツールとして有効でした。

・演習の授業でレポートの書き方、特に構成の立て方、文中での引用の仕方、文献リストの作り方（書誌情報の記載方法）を詳しく取り上げたことが役立ったという意見を複数いただきました。中間課題にも間に合うよう、なるべく学期の早い時期から取り上げていきたいと思っています。

・人数の多い講義科目では、毎回の質問やコメントを次回の授業の最初に紹介し、質問に答えたりコメントへのフィードバックを行ったりすることで前回の復習をするとともに、受講生間でもお互いの意見を共有し、それに刺激された意見を提供してもらえるようにしています。

・授業毎に受講学生に振り返りを書いてもらい、その中から何名かの学生の振り返りを紹介しています。コメントを加えることもありますし、振り返りの中に質問があれば答えるようにしています。

・比較的大人数の授業であっても授業中にペアワークやグループワークを取り入れ、その結果を全体共有してもらおうようにしています。少しでも学生が主体的に授業に参加できるよう努めています。

・授業内容に関連している学内外で開かれるイベントや講演、研究会などを紹介しています。例えば、日本語教員養成課程の学生には日本語活動（難民留学生、日本人学生、大学院生などが参加）を紹介し、入れ替わりで多くの受講学生が参加しています。その他、UNHCRの難民映画祭も毎年、受講学生に案内していますが、映画祭で映画を見ることで授業での学びを深めている学生がいます。今後とも、こうしたイベントや講演、研究会などを紹介していきたいと考えています。

・ゼミの授業では、ゼミ日誌を書いてもらっていますが、その中から次回の授業でディスカッションができるようなテーマを探し、授業の中で日誌に書かれていたことが扱われるように心がけています。

・3年次演習において毎回授業での振り返りやコメントを書いてもらっています。それに対し、教員から一人ひとりにコメントを書いて返します。学期を通して継続するので学びの記録を一目で見ることができます。

・授業で扱う内容が難しい場合には、グループで相談ができるようにグループワークの準備をしています（グループのカードを作る、課題をまとめる話合いに使う画用紙を用意する、など）。

・授業内では、道具を使って体験・体感できる工夫をしています。授業外では、Web教材も活用して練習の機会をもっていますが、各学生がどれほどアクセスができていないか管理できていません。

・ゼミの授業では、提出されたレポートのコメントから、学生全員で共有できるような注意点をまとめて伝えていきます。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	数理科学科数学専攻
学科・専攻主任、所長、委員長等	大阿久 俊則
検討会実施日	2019年10月17日
出席者数	7名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

(1) 出席状況を成績に含めて欲しいという複数の要望がありました。成績評価方法についてはあらかじめシラバスに記載してあるので授業ごとに確認してください。一般論としては、出席は授業を理解するための必要条件であって十分条件ではありませんから、単に出席していても勉強しなければ良い成績はとれません。そのため出席を取る代わりに毎回課題やコメントペーパーなどの提出を義務付け、その提出状況を成績評価に反映している授業もあります。

(2) 授業の難易度や進度については、わかりやすかった、ちょうど良かったという意見もある一方で、内容が難しい、あるいは進度が早くて、ついて行くのが難しかったという意見もありました。疑問点は授業中でも積極的に質問してください。質問は授業を活性化する効果もあります。また、授業時間内に細部まで完全に理解するのは難しいことだと思います。授業中は話の流れに集中して、細かい証明や計算は後で復習しながら再確認するという勉強法も良いと思います。それでも理解できない点があれば積極的に質問してください。教員側も、授業だけでは十分理解するのが難しいと思われる場合には、理解を助けるための課題を出すなどの配慮を行うことが多いと思います。難しいと感じてもあきらめずに理解しようとする姿勢が大事です。

(3) 板書が読みづらかったり、ミスがある場合があるという意見がありました。教員は板書には十分な注意を払っているつもりですが、複雑な式などはどうしても読みづらくなったり、また板書ミスをする場合もあると思います。学生の皆さんには、なるべく前方の席に着席したり、読みにくかったりミスだと思われる場合には積極的に指摘するなどの対応をお願いします。またミスかどうか推測することは良い勉強にもなります。

(4) 課題について、難易度に差がありすぎる、どの程度まで詳しく書けばよいのかわからない、解答が欲しいなどの意見がありました。課題やその方式は、各教員が教育効果を考えて決めています。安易に解答を配布することは、学生の皆さんが自ら考える機会を奪うことになる場合もあります。課題について疑問点があれば担当教員に質問してください。

(5) コンピュータ実習を取り入れた授業では、理論を体感できて理解が深まったと積極的に評価する意見がある一方で、数学の授業でコンピュータを使うことに反発する意見もありました。コンピュータ実習を伴うことは当該科目のシラバスにも記載されており、かつ数学専攻と情報理学専攻共通の選択科目であるため、この批判は当たらないと思います。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

全般的に授業に対する肯定的な意見が多く、教員の授業改善に向けた努力が学生に評価されていると考えています。特に、授業がわかりやすかった、演習問題や小テストや課題などが授業内容を理解するのに役立ったなどの意見が多数寄せられています。また、全般的に出席や課題の提出状況も良く、きちんと勉強している学生が多いと感じています。しかし一方では、授業を理解できず単位を取得できない学生も散見されるため、そのような学生への対応が今後の課題だと考えます。

# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2019年10月31日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等

数理科学科情報理学専攻

学科・専攻主任、所長、委員長等

安藤 耕司

検討会実施日

2019年10月3日

出席者数

7名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

・「演習室の設備が変わったこともあり、とても授業が受けにくい。メモを取ることが特にやりづらい。」という意見がありました。次年度以降、演習室の設備に合わせた教材作成を心がけます。

・「課題の説明のとき、先生の話すスピードや作業がはやすぎてついていけません。」「LAN や IP アドレス、ネットワークなどについての説明がわかりやすく自分が将来情報の授業を行う際に必要な知識を身につけることができました。」という意見がありました。履修者数が多く、席に余裕がない状態だったこともあり、丁寧な説明を心がけたつもりですが、よく理解できた人がいる一方、授業についていくのが大変だった人もいたようです。次年度以降、より丁寧な説明を行っていきますが、前回の授業内容を復習する、わからない部分は演習の時間中に質問する等、学生の皆さんにも主体的な取り組みを期待します。

・「講義で学んだことを課題を通して復習することができ理解が深まりました。説明が大変わかりやすかったです。」「難しく感じましたが、社会に役立てられそうだと思います。」という意見がありました。今後も、毎回の課題を通して理解を深める授業を続けていきます。

・「講義ノートが分かりやすかった。実験も多く、楽しんで授業に参加することができた。助手の先生も優しく、わかりやすかった。授業中の私語が気になった」という意見がありました。今年度は実験のテーマを更に少しだけ増やし好評だった様です。私語については、その都度注意したつもりですが（履修者数が多かったこともあるのか）徹底できていなかった様です。改善に努めたいと思います。

・「講義ノートが充実していた。」「先生が授業中に四次元空間の話をしていて、とても興味を持ちました。総合的に見て楽しく授業を受けることができて良かった」という意見がありました。これからの学修において疑問点が生じた際に、この講義ノートで基礎に立ち返り、復習してもらえると幸いです。

・「プリントの余白がもう少し欲しかった（メモ、図が書ける程度）。」プリントは枚数が増えないようになるべくコンパクトにしています。考慮しますが、ノートを使ってほしいと思います。

・講義で取り上げる動植物の写真を見せるのは、イメージがわかりやすく理解につながると好評でした。

・「ほぼ毎週で課題をやるのが大変だったが、それをやったおかげで理解が定着したので良かった。」「実験が丁寧でとてもわかりやすかったです。毎週で課題もその週の授業の内容をもとにしたものだったので、良い復習になりました。」「毎回の課題に取り組むことで理解度を深められて良かった。」

課題にしっかりと取り組み、意義を理解してくれて嬉しく思います。実験については、過去の経験から、こちらにとって些細に見えることが意外なところで障壁となっている場合があるようでしたので、今年は改善を試みました。上手くいったようで良かったと思います。

・「最初にこの授業をとる時、物理化学と書いてあって、物理が苦手だったので授業についていけないかなと思っていた。でも、黒板に式などを丁寧に書き、説明してくれていたの理解しやすかった。」「補助資料が多かったの深い理解につながられた。例題を用いた解説のおかげで課題に取りくみやすくなった。」「授業の初回辺りの説明では、なんとか理解していけるかなと思ったが、想像以上に私にとってはHWも含めむずかしかった。」「コメントシートに書いた質問を次の授業時にしっかりと解説してくれたのが良かった。」「質問したらいいいに解説してくれたので、とても質問しやすかった。」「ほぼ毎回課題があったのはなかなか大変でしたが、良い復習になり、授業内容についていけなくなることはな

かったです。実験レポートは、期末にまとまってくると大変なので、半ばくらいに出してほしいです。」

「フィードバックが素晴らしかった。」

・「講義で教えられた事以外を求められなかった。」「講義の内容の復習にとどまる課題の存在が大変ありがたかった。」「それにも関わらず教えられた範囲に限らず疑問に答えて下さった。」

・「講義の中でも、一事象について言い回しや例を多用し複数回すりこんで下さったのがありがたかった。」「宿題の答えを解説後でも良いので配ってほしかった。」「講義の後質問できる時間があって助かりました。」「次の授業で出すプリントがしっかり前回の内容の復習になっていて、非常に分かりやすかったです。テスト対策もプリントの内容を復習すれば全ての内容ができそうなのでとても良かったです。」

「物理をやったことがなくて正直不安でしたが、先生の授業はとてもわかりやすく、また毎授業でコメントペーパーに書いたことを、改善して下さるのでよかったです。」 物理化学では主に化学熱力学を扱いますが、エントロピーや自由エネルギーなどの抽象的な側面に難しさを感じる場合が多いようです。分かり難い部分を正直に伝えてくれたので、複数の例題を用いて多面的に説明することを試みました。実験レポートの時期については、期末に偏らないようにできるだけ調整するようにします。課題の解答は、解説時に集中して聞き、分からなかったら授業後に質問に来てもらうのが良いと思います。期末試験前にまとめて配布することは検討しようと思います。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 学生・WEB 開示

・WebClass を利用し、出席確認、配布資料や授業で用いるプログラムのダウンロード、レポートの提出を行えるようにしています。自宅でも閲覧できるため、予習・復習に役立っていると思います。

・最初と最後の回を除き、毎回課題を課しています。授業で扱った内容の要点の復習となるように課題の内容と難易度を調整しています。

・毎回練習問題を行って、自分で解かせるようにしています。

・座学だけでなく、講義内容の理解を深めるべく物理学実験を行っています。今年度は昨年に引き続き実験テーマを更に少しだけ増やしましたが、好評の様でした。

・情報実習室のコンピュータ環境を更新したばかりであるため、前期での問題点を改善して、情報教育の充実を図ります。

・講義の復習となる課題に加え、予習用の課題や、発展的な課題も出すようにしようと思います。



# 「2019年度前期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年1月6日

学科・専攻、研究所、科目運営委員会等	女性学研究所
学科・専攻主任、所長、委員長等責任者	女性学研究所 所長：唐澤 真弓
検討会実施日	2019年12月27日
出席者数	3名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）[学生・WEB 開示](#)

女性学・ジェンダー関係科目の性質上現状では個別アンケート結果の持ち寄りができないため、割愛させていただきます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策 [学生・WEB 開示](#)

女性学・ジェンダー関係科目全体として、全学的な平均からくらべると、肯定的な評価が多くなっています。今回も「非常にそう思う」など肯定的な回答の割合が高かったものは、設問4(シラバスの有用性)、設問5(授業の準備・計画性)、設問6(授業の理解)、設問7(教員の話し方)、設問10(授業運営の適切性・公正性)、設問12(問題意識深化)、設問13(総合的満足度)などです。しかしながら授業科目毎の分析ではないので、今後詳細な分析を行い、問題点、改善点を明らかにしていきます。

今回も設問2(教室外学習の時間)で「週1時間未満」、「全くしていない」という回答が多いことは継続して改善策を考える必要があります。今年度は昨年度の結果を受け、授業外学習を促すことも狙いとして、女性研の蔵書などの文献紹介や精読を薦めることに務めました。2019年12月になりましたが、蔵書ならびに閲覧環境を整備して、「女性学研究所図書資料室」をリニューアルし、学生の皆さんには利用を広報しているところです。

学生への女性学・ジェンダーに関する知識などの理解度の点検・配慮をより高めるよう工夫し、女性学・ジェンダー分野の問題についてさらなる学習を促すように、より一層努めながら関係科目のさらなる充実を図りたいと思います。